

## 応募者 130 人！ シンボルマーク当選作の決定まで

担当理事 羽柴 駿（弁護士）

最終的に 130 名もの応募者があったと聞いた時は信じられない思いでした。正直言って J C L U のようなマイナーな人権 N G O にそれほどの関心が集まるとは思っていなかったからです。おかげでこれまで J C L U と全くご縁のなかった多くの方々に J C L U の存在と活動を知っていただけたことは、それだけでもこの公募をやって良かったと思えたのでした。

さて問題は、この応募作から当選作 1 点をどうやって選ぶかです。多忙な選考委員の方々にお集まりいただくのは 1 日だけ、それも数時間が限度でした。私を含む事務局側で事前の下調べはしておいたのですが、結局、4 名の選考委員の方々は全作品をその目で見て次々と候補作を選び出しました。最終的な候補作として残ったのは 5 点。きれいな色彩で J の字を図案化したもの、丸いマークの中に J C L U の文字を取り入れたもの、まるで交通信号のように 3 色を並べたものなど、いずれも素敵な作品ばかりでしたが、最終的に選ばれたのは黒一色で正 14 角形を描いた菊地和宏さんの作品でした。選考委員の浅葉克己氏が高く評価するその斬新さは、21世紀の J C L U を表すシンボルマークにふさわしい大胆なものと言えるでしょう。

今回の公募には、デザイン関係の学生や若手デザイナーだけでなく、14歳の中学生 3 年生をはじめとして多くの素人と思われる方々も多数応募していました。応募作品の傾向としては、J C L U の文字を図案化したり、人間の顔にしたものが多数見受けられました。また、緑や樹木を用いた環境派指向のものも多くありました。しかし、菊地さんの当選作のようにこのような傾向とは別に独自のデザインをめざしたもののが、概して選考委員の評価は高かったようです。

今回の公募がこのような成果をあげることが出来たことについて、応募してくださいました方々、4 名の選考委員の方々、事務局役をつとめていただいたクロスフィット関係者、補作を担当していただいた浅葉弾氏、その他のみなさんに厚くお礼を申し上げます。